

みなとつぷ

Takanawa
Community News Magazine

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台

発行：高輪地区総合支所 協働推進課
編集：みなとつぷ編集室



<http://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



CONTENTS

2 地域に生きる建築

グラスハウス
カトリック高輪協会

3 この街にこの人あり

中島 千波さん
(日本画家)



4 5 地域のあしあと

地域に残る庭園、緑地

6 暮らしプレイバック

古川 社良さん

読者のおすすめ料理
タイ東北部の豚肉サラダ

7 地域で活躍する子どもたち

今日は一日有権者!

ただいま夫婦で
子育て中

8 区からのお知らせ

表紙絵 櫻花爽春不二
(2013年 50号)

〔作者〕日本画家

中島 千波さん(白金台在住)

地域の出会いが教えてくれたこと 大学生が見た高輪地区

桜が咲くと、新しい出会いが待っているような気がしてわくわくしてしまいますね。この春に明治学院大学を卒業する私にとって、高輪地区で過ごした4年間は多くの出会いと大きな学びを得た時間でした。みなさまへの感謝を込めて、学んだことをここに記したいと思います。

高輪地区で初めて出会ったのは、御田小学校の保護者で結成された「おやじの会」のみなさんでした。「少しでも子どもたちに元気に登校してもらいたい」と、朝早くから学校の前で挨拶運動をする姿に、大変な活動をどうして続けられるのかと不思議に思いましたが、お手伝いさせていただくことで理由はすぐに分かりました。子どもたちに挨拶をすると、勢いよく挨拶を返してくれ、逆にこちらが元気をもらってしまうのです。進学を機に上京し、不思議な寂しさを感じていた私に、その活動は地域とつながっている温かさを実感できるものでした。つながりを感じること、こんなにも安心感を得られるのかと驚いたことを、今でも鮮明に覚えています。

それからは、高輪地区の多くの方と出会うことが私の大学生活の目標になりました。今になって振り返ると、何か貢献したいと思って参加した活動も、気づけば私のほうが喜びや楽しみをいただいていたような気がします。そして、この情報紙の編集委員を務め、様々な方と出会うことができました。高輪地区で出会う方は、地域とのつながりに積極的な方ばかりです。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでも、地域の人々の温かなつながりによって外国からのお客様を歓迎することが、何よりも成功への第一歩となるのではないのでしょうか。

人と人とお互い支えあうことで、地域は成り立っているのかもしれない。まだ答えは分かりませんが、高輪地区のみなさんからいただいた温かさは、何にも代えられないものです。これからは、私がそれを伝えられる地域の大人でありたいと、強く思います。

(担当)増田

地域に生きる建築

建築家が心を込めて設計し、地域の人々や所有者に愛され上手に使われている建築がある。今回は高輪4丁目の2作品をご紹介します。

① グラスハウス(旧館と新館) 高輪4-1-22

高輪4丁目にある新旧2つの建物は、いずれも、ワインの輸入販売会社の(株)オーデックス・ジャパンの事務所と小売実験店として使われている。

■ 旧館(旧NAH邸)

旧館は1965年に当初個人住宅として設計されたものである。その後、オーデックス・ジャパン社長の森俊彦氏がこの建築に惚れ込み部分的に改装して利用している。斬新な設計とともに、森氏が愛着を持ってきちんと維持管理しているので50年前の建物には見えない。

この建物はコンクリートと木造の混構造で、木の型枠による打ち放しコンクリートの荒々しさと木材のもつ温かい質感の魅力を徹底的に引き出している。

樹木のような形の柱が並んで屋根を支えている形状が大きな特徴となっており、木造の回り階段のデザインが美しく、空間に変化を与えている。

■ 新館(アトリエ)

新館は2013年、オーデックスのアトリエそしてソムリエさんへのセミナーのスペースとして、中庭を挟んで旧館の北側に建てられた。オーナーの森氏の生活スタイル・理念を建築の設計に反映したもので、木とガラスで構成されている。素材の美しさと無駄のない研ぎ澄まされた空間が、心の安らぎを与えてくれる。森氏は外の景色の季節の移ろいを楽しみながら瞑想する場としても、ここを利用している。



木造の2階の部屋が45度振れて、飛び出している個性的な外観
低い天井のアプローチと中庭のデッキ



木の素材の美しさを見せる回り階段



樹木のような形をした柱



新館1階アトリエ



(春)

(秋)

<設計者> 鈴木 恂(すずき まこと)

1935年北海道に生まれる。1962年早稲田大学大学院修士課程修了。吉阪隆正教授に師事。1964年鈴木恂建築研究所設立。1980年早稲田大学教授。2001~2004年早稲田大学芸術学校校長。現在早稲田大学名誉教授。スタジオ・エビス、早稲田大学大久保キャンパス新研究棟など作品多数。



既存の樹木を活かし周辺の環境と調和した外観



モニュメントの塔



大聖堂内部半円形の鉄骨のリブとトップライトでドラマチックな空間を演出する



地下の納骨堂(クリプト)



地域の人を優しく迎え受ける中庭空間

② カトリック高輪教会 高輪4-7-1

ざくろざか 石榴坂を上りきったところの左にカトリック高輪教会がある。

以前の木造の建物が老朽化し、1989年、建て替えられ現在の姿になった。モニュメントの塔は寺田尚樹氏の設計で1997年に建てられたものである。

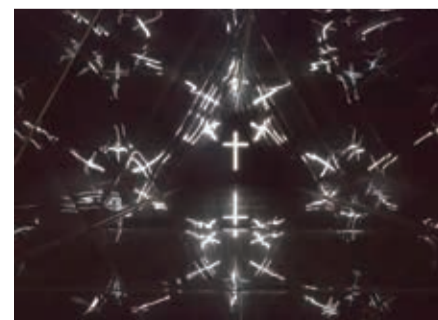
建物は中庭を挟んで大聖堂と付属の司祭室、事務スペース等で構成されており、地下には納骨堂(クリプト)がある。

この教会では江戸時代、幕府の弾圧で三田札の辻で火刑に処された50人の殉教者の信仰を讃え、毎年「殉教者記念祭」を行っている。納骨堂の壁に、江戸殉教図が飾られている。

建物は、コンクリートや鉄骨の素材を用い、きめ細かなデザインや曲線を用いて、柔らかさと優しさを巧みに表現している。大聖堂は鉄骨の円形のリブとトップライトにより、感動的な空間を演出している。

外から入りやすい位置に中庭を配置し、地域の人達も利用できるような開かれた教会になっている。敷地にある既存の樹木を残して、地域の環境との調和を図っている。

モニュメントの塔の中に入り、下から見上げると十字架が万華鏡のようにいくつも見える仕掛けとなっている。



モニュメント内部を下から見上げる。万華鏡のように見える

<設計者> 船越 徹(ふなこし とおる)

1931年東京都に生まれる。1958年に東京大学大学院博士課程修了後、1967年まで吉武研究室助手をつとめ、その後東京電機大学に。1961年東京大学工学博士。1970年、建築設計事務所アルコム設立。教育施設や文化センターなどの公共施設を数多く手がけている。受賞歴は日本建築学会賞ほか多数。東京電機大学名誉教授。

この街にこの人あり

日本画家

なかじま ちなみ
中島 千波さん

好きなことを見つけた時に花が開く

表紙に桜の絵の掲載をお願いした日本画家・中島千波さんのお宅に伺いました。最初にアトリエにご案内いただき、インタビューはここからスタートしました。

「はいはものすごく広いアトリエですね」

そうですね。80畳くらいあります。ご覧のように約10点位を同時進行しています。床にスケッチを横に置き絵を描いていますが、その日その日で描きたいものを描いています。このアトリエにすべての画材が揃っておりまして、その時の気分でも色々な絵が毎日変化していきます。

今回の高野山障壁画（襖絵）のように、一つの絵に集中して描くこともありますが、その時に描きたい絵に身体が向いていきますね。学生時代は、人間を主に描き始めましたが、現在は花鳥画、おもちゃ、野菜などの静物画、風景画、人物画そして抽象画を同時進行しています。だいたい毎年同じペースで描いています。

画家になつたきっかけをお聞かせください

3歳の時に家族と一緒に疎開先の小布施町から横浜に戻って来ましたが、父親の日記によるとそのころから絵を描き始め、



【プロフィール】中島 千波 (なかじま ちなみ)

1945年、疎開先の長野県小布施町にて出生。父は中島清之さん(画家)。3歳の頃、横浜に戻る。1971年東京芸術大学大学院修了。1970年神奈川県美術展(神奈川県立近代美術館)でK氏賞を受賞。1977年第32回春の院展で奨励賞を受賞したのをはじめ多くの受賞をしている。1992年おぶせミュージアム・中島千波館(長野県小布施町)開館。鎌倉・鶴岡八幡宮・斎館貴賓室床の間障壁<孔雀図>、深川不動堂・内仏殿格天井画<大日如来蓮池図>、高野山金剛峰寺奥殿桜の間障壁画のほか、桜の絵画を始め多岐にわたる作品がある。2013年新歌舞伎座新緞帳<春秋の譜>完成。現在、東京芸術大学名誉教授、日本美術家連盟理事、Artist Group-風-メンバー



床一面のスケッチと制作中の絵(アトリエ)

と彩色のどちらもち時間半分まで終わってしまいました。芸大時代は結構、自由に絵を描いていました。両親が高齢でしたので、早く自立しなければと思い、教員の準備もしまし、父親が絵を教えた片岡球子さんから何回か大学で教えることを薦められました。が、結局、絵を描くことで生計を立てる道を選びました。

桜の絵の印象が強いですが?

桜の絵について言えば、はじめは描きたくなかったのです。昔から桜のスケッチはよく描いていたのですが、日本画として描くきっかけは速水御舟が描いた「宵の桜」を見て、描いてみようかと思えました。たまたま、巨樹、老木の桜と言う写真集を見て、淡墨桜と臥龍桜を描いたのが最初でしょう。

宇野千代さんが紹介した淡墨桜(岐阜県日本巣郡根尾村)を描きに行きました。1000年以上という樹木の神秘性を感じ、3、400年以上の桜を求め全国を歩きまわりました。どの桜も素晴らしのですが、特に印象的なものを挙げれば、やはり淡墨桜、福島・三春の滝桜、山梨・山高神代桜ですかね。

高野山開山1200年記念の絵を奉納されましたね?

高野山の宗務総長から開山1200年の記念散華の依頼をされました。その後、次の宗務総長さんから、金剛峰寺桜の間の障壁画3

点(襖絵12枚分)を描いて欲しいと依頼されました。約1年間しか時間がなく、しかも私はすべて自分一人で描きますので、異例の短時間で描き上げました。

スケッチから小下絵を描き、それを直接襖絵として描くという手法をとりました。以前描いた、成田山東京別院深川不動堂の天井画の場合は、スケッチから下絵を描き、それから90cm四方123枚の桐の板に描きました。約150畳程です。

新歌舞伎座の緞帳も描かれていますね?

旧歌舞伎座の緞帳を1994年に描きました。洒落で「松竹に足りないものは梅ですね」ということで淡紅白梅をテーマに描きました。今回も声がかかり、「春秋の譜」というテーマで、桜と楓の紅葉にメジロを2羽飛ばしました。緞帳は画家、デザイナーさんそして織物師の合作です。織る方の苦労も大変です。

疎開先の小布施町で個展を開催されましたね?

小布施町には愛着があり、古希の記念展を開催しました。昔の人物画から桜は勿論のこと、今回は最近の山の絵を多く展示しました。2006年にセザンヌが描いた南フランスのサント・ヴィクトワール山で写生しましたが、2014年にも一度行って描いたものや、32年振りに行つて描いたオーストラリアのエアーズロックなどを屏風に描き、展示しました。



「皐月の頃」 2013年 6号

いま、子どもたちに何か助言はありますか?

絵画だけに限らず、学校で教わる事だけが重要ではなく、自分の特徴のあるものを見つけることが大切ですね。無理やり勉強してもだめです。自分が好きなことを見つけた時に、花が開くのだと思います。ある程度の技量や知識を身につけることは誰でもできますが、ある程度以上になるにはしつこさが大事なのです。そのためにも、親は子どもの特徴を見つけてあげることが大切なのです。私は子どもの頃からお絵描きばかりしていました。

白金台に住んで18年になるとお聞きしましたが

小布施の疎開先から、横浜に戻り、学生時代、画家の駆け出しの頃を過ごしました。その後、鎌倉に居を構えましたが、48歳で東京芸術大学デザイン科の助教授になり、東京に出勤することになりました。また、この時期に三越の個展が決まりました。また、この時期に三越の個展が必要がありました。鎌倉、芸大を車で移動しましたが、負担が多く東京に家を探しました。プラチナ通りのイチョウ並木を通つた時に、この地域が大変気に入りました。場所を選びました。当時は周囲にまだ本屋さん、肉屋さんがあった時代です。

馴染みのお店が無くなった寂しさはありますが、この街も地下鉄が通り、道路も広くなり、暮らしやすいです。近所に美味しいお店もあり、この地域が好きで、家族ともども生活を楽しんでいます。近所家族と食事をしたり、一人で買い物に行ったりすることもあります。この地域の良さはなくして欲しくありません。これからは展覧会の開催など、地域とのかかわりのあることが出来ればと思っています。

取材を終えて

ユーモアにあふれ、多くの人に好かれる中島さんの気さくなお人柄がよくわかりました。途中から奥様も同席され、笑いにつつまれたなごやかなひとときでした。

(担当) 太田、松島、安藤、森、滝川

① 東禅寺の庭 高輪3-16-16

1610(慶長15)年に開創された東禅寺は、1636(寛永13)年高輪に移転された。庭はその時創られたものであり、現在もほぼその姿を伝えている。

鬱蒼とした木々が生えた山を背負い、中の島がある大きな池、岩組、刈り込んだつつじなどの配置は、禅寺の庭の一つの典型を示している。自然の持つ諸要素を象徴して創られた庭は、禅僧がその偉大さに接し、瞑想、修行する場として存在する。

自然の姿を維持しているため、白鷺、鶯などの野鳥、ためき、ハクビシン、蛇などの小動物も訪れている。池には、コイ、フナ、亀、ザリガニなどが生息している。

大雪や台風では、枝が折れたり、倒木があったりすることもあるが、永い年月きちんと維持されている。

東禅寺の庭は公開されていないが、年1回開催する「緑の自然環境を大切にしましょう」というテーマの「緑のコンサート」の時のみ、来場者に公開している。

庭だけでなく東禅寺全体が高輪地区の貴重な自然環境を形成している。これからの環境が残されてほしい場所である。

※東禅寺の「禅」は正式には旧字体の「禪」です。



三重の塔と桜



自然の姿を伝える禅庭

地域のおしあと 地域に残る庭園、緑地

かつて、この高輪地区には大名屋敷や寺院などの大規模な敷地が多くありました。その後ホテル、記念館や公園などに用途が変わったものもありますが、その敷地内に庭園や緑地が残されている場所も珍しくありません。今号では、その中からいくつかを訪ねてみました。



③ シェラトン都ホテル東京の日本庭園 白金台1-1-50

1979(昭和54)年に旧藤山愛一郎(元外務大臣、日本商工会議所会頭等を歴任)邸跡に開業した都ホテル東京(現:シェラトン都ホテル東京)。あまり知られていないが、その敷地内にある日本庭園は静かな散策の場となっている。

ホテルに入って正面、ロビーラウンジの大きな窓越しに庭園の緑が目に入ってくる。建築家村野藤吾氏の設計によるもので、この庭園へは地下1階から出ることができる。

約1,800坪(6,000㎡)の日本庭園には銀杏や楓が生い茂り、新緑の季節はもちろん、秋には紅葉が色づき、四季折々の景色を見せてくれる。杜の小径には藤山愛一郎氏のコレクションである石像や石塔が随所に配されており、昔をしのびながらの散策も楽しめる。

奥に進むと庭園に佇む「杜のチャペル」の手前に、幹が二股に伸びた樹齢100年の相生銀杏が。あたたかも夫婦が仲良く寄り添い並ぶ様子に似ていることから、夫婦円満や子孫繁栄のシンボルと言われ、ホテルで挙式するカップルのパワースポットになっている。

この日本庭園は、毎日6:00~22:00(11月~2月は7:00~22:00)、無料で一般の方にも開放されている。



石塔や石像は藤山愛一郎氏のコレクション



ロビーラウンジの窓いっぱいに広がる日本庭園



双幹の相生銀杏は人気のパワースポット

② 畠山記念館の庭園 白金台2-20-12

白金台の静かな住宅地にたたずむ畠山記念館は、創設者畠山一清氏(株式会社荏原製作所を興した実業家)が収集した茶道具を中心に、書画、陶磁器、能装束など、日本、中国、朝鮮の古美術品を展示公開している私立美術館である。

この美術館の周りの庭園は、もと鹿児島藩主島津重豪が隠栖した場所で、重豪は、境内の勝景を選び亀岡十勝の詩碑を建てた。明治維新後、伯爵寺島宗則の屋敷となり、1880(明治13)年には明治天皇の行幸があって、天覧能が催されたことで聖蹟に指定された。後に昭和の初め、荒廃して分割譲渡されようとした時、畠山一清氏が由緒ある土地が消滅するのを惜しみ、一括購入して私邸とした土地の一部である。

家紋の記された正門から入ると、樹齢200年以上のムクノキ、アカマツなどの木々が生い茂り、都心とは思えない、しんとした静寂に包まれる。石畳を歩いて行くと、やがて記念館の本館が見えてくる。お客様が気持ちを整えてから美術鑑賞の場へと向かえるように、あえて一清氏が、門から直接本館が見えない様に、路を配置したのだそうで、深い配慮が感じられる庭園である。園内には、6つの茶室が点在し、年に1回一般公開されるほか、貸席として茶会、花会などを行うことができ、それぞれに緑豊かな自然を望める。



美術館外観

photo©Eiji INA



樹齢100年のシダレザクラ

photo©Eiji INA



秋の庭園

④ 高松中学校とその周辺の緑地(旧細川邸中屋敷の緑地) 高輪1-16-25

高輪一丁目位置する高松中学校は、かつては高松宮邸の一部であった。高松宮邸は、遡ると江戸時代には熊本城主・細川氏の中屋敷であった。校地とその周辺には、斜面を中心に多くの緑地が残されている。この緑地には、大きな銀杏の木や天然記念物に指定された椎の木が見られ、江戸時代の細川邸から受け継いだものと考えられている。

加藤清正が朝鮮より持ち帰ったと伝えられる石塔、元禄の昔に細川邸にあずけられた赤穂浪士大石良雄以下、十七士が切腹したあと、その血を洗ったという「血洗の池」がある。

また、芝の水野邸にあずけられた神崎与五郎以下、九士が切腹したときの首洗いの井戸枠、朝鮮渡来といわれる2体の石像は、後年、赤穂浪士のゆかりの深い細川家屋敷跡に設置された。

斜面の上の台地には、多くの桜が植えられており、近隣の住民の目を楽しませている。中学校に近接する町会は、合同でこの桜の開花の時期に、桜まつりを開催している。



加藤清正公ゆかりの石塔



樹齢200年以上といわれる銀杏の木



赤穂浪士17名の切腹の血を洗ったといわれる池



高松桜まつりで楽しめる桜

<参考文献>「畠山記念館ハンドブック」(編集・発行 公益財団法人 畠山記念館)



終始穏やかな笑顔が印象的な古川さん

1997(平成9)年8月、北青山にあるTEPIA(機械産業記念館・当時)で開催された「エジソン生誕150周年記念展」において、エジソンダイナモ(エジソンの発電機)の駆動装置の製作にたずさわったことは、貴重な経験でした。知人に頼まれ、期間が限られた中、不眠不休で

15歳で上京
 中学校を卒業した1947(昭和22)年、当時、東京から疎開してきていて親しくなった人が東京に帰ることになり、一緒に上京することを決意、15歳でした。
 中野で1年ほどお世話になり、そ

エジソン生誕150周年記念展

その後、紹介され田町(札ノ辻)にあったトヨタ自動車の電装関係の工場へ奉公に、そこには11年いました。その間、どうしてもモーター関係の仕事がしたくて、近くの芝浦工業専門学校(現芝浦工大)の夜学に4年通った。通算9年ぐらいいは通ったでしょう。おかげで電機関係の理論と実技を身につけることができました。

26歳で独立
 最初に独立した場所は高輪車町、その後、三田五丁目を経て、1958(昭和33)年白金二丁目に工場を建てました。
 独立する少し前に同じ福島県出身の女性と結婚し、子どもは3人います。念願のモーター、バッテリー関係の扱う仕事は、高度成長期にも恵まれ、次から次へと注文が殺到しました。日本IBM製品関係のメンテナンスをやっていたときは部品が外国製品のものもあり苦労しました。6人の職人を雇い、3年間無休で、毎日睡眠時間3時間ぐらいいで乗り切りました。仕事をしていると、利益追求だけではできないことが多いと感じています。

再開発で移転

2000(平成12)年の地下鉄開通に向けた白金一丁目東地区市街地再開発事業で土地を売却し、知人の紹介で白金一丁目から三丁目の現所在地に工場を移転しました。同時に、高輪に自宅を建てました。
 今でも毎日7時半には家を出て夜6時半までは工場です。仕事をしています。いつ依頼の連絡があるか分からないので工場を空けるわけにはいかないのです。

これから

この歳にして、はじめて年齢を感じるようになり、半年かけて仕事の量を減らしました。昔からの得意さんもいるので断るのも大変でした。
 今まで途切れることなく仕事に打ち込めたのは、健康に恵まれ、運よく時代にも後押しされたこと、そして、なにより人との絆のおかげと改めて思います。仕事に興味のようなもので、お客さんに喜んでもらえ、体の続く限りこれからも生涯現役で続けていきたいと思っています。
 (担当/吉田、安藤)

暮らしプレイバック

お話を伺った人 古川 社良さん (83歳・高輪在住)

趣味は仕事！生涯現役！

白金で50年余、電機関係の仕事を経て、83歳の現在も現役で多忙な毎日を送っておられる古川社良さん。趣味は仕事と言いつけるその情熱の源とは何か。仕事の合間の貴重な時間を頂きお話を伺いました。

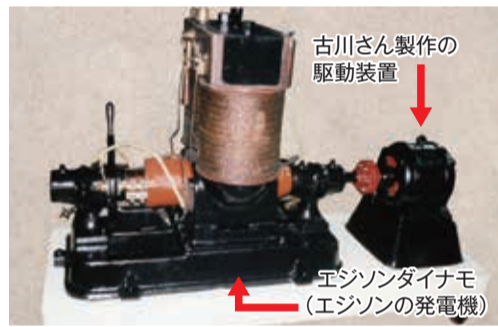
農家の三男として生まれる

私は1932(昭和7)年、福島県須賀川市で農家の三男として生まれました。小さいころから父親に就いて農業の手伝いを良くしました。

あるとき、父



展示会場にて



読者のおすすめ料理

福安恵梨さん(白金在住)

ナムトック ムー (タイ東部の豚肉サラダ)

材料 (3~4人分)

- 豚トロ焼き肉用またはロース..... 200g
 - 粉末唐辛子 小さじ1
 - ナムプラー 大さじ1
 - パクチー (コリアンダー)..... 1/4カップ
 - 紫玉ネギ 千切り..... 1/3個
 - 青ネギ 小口切り..... 1/4カップ
 - ライム果汁 大さじ1
 - 砂糖..... 小さじ1
 - 鶏ガラスープの素 小さじ1
 - 水 大さじ2
 - 米 (カオクア用)..... 大さじ1 強
- サラダ用に、ミント、唐辛子、キャベツ、きゅうり、トマトなど、お好みで



作り方

- 炒りゴマの要領で米を炒り、すり鉢で荒い粉状にすりつぶし、カオクアにする。
- 豚肉を5mm位にスライスし、グリルかフライパンで焦げ目が付くくらいに焼き、油が多すぎる場合は取り除く。
- フライパンに②の豚肉、水、鶏ガラスープの素、砂糖、ライム汁、ナムプラー、唐辛子粉を入れ、中火で炒める。
- 少し煮詰まったら火を止め、紫玉ネギの千切り、①のカオクア、青ネギの小口切り、パクチーを加えて和える。
- サラダ用の野菜と盛り付ける。



炒った米を、すり鉢ですりつぶした「カオクア」

ワンポイント・アドバイス

辛さも酸っぱさも甘さも全て、ご自分のお好みの量で調節してください。

ご本人のコメント

タイ在住時代、一番好きな料理でした。最近では高輪地区でも多くのスーパーでアジアコーナーが増えたように思います。タイカレーや春巻なども手に入るので、あっという間に、自宅でタイ料理パーティー!!

地域で活躍する 子どもたち

今日は一日有権者! ~小学生たちの模擬投票~

海外の多くの国では18歳以上に選挙権が与えられており、日本でも今夏の参議院議員選挙から20歳だった選挙権年齢を18歳からとすることになりました。高輪地区では、18、19歳合わせて642人の新有権者が増えることとなります。御田小学校では、2年前から、毎年6年生が実際に使われている投票箱や投票管理者・立会人の協力のもと、候補者の演説を聞き、政策を比較して自分が支持したいと思った人へ投票する模擬投票を経験しています。2月20日に行われた模擬投票を取材してきました。



候補者を間違えないよう、慎重に記入している様子

初めに、港区の選挙管理委員会の方から選挙についての授業が行われ、選挙のルールや、投票の仕方を学びました。「18歳から選挙権が与えられることを知っていますか」という質問には、ほとんどの生徒が手を挙げていました。

立候補者役を務めるのは、3人の先生方です。「外国と仲がよい区にする」「元気で活力がある区にする」など、それぞれ掲げる政策は様々です。「高級ホテルのバイキングを毎日お替り自由にします!」というマニフェストには、生徒たちから思わず「お〜〜」という歓声の音が上がりました。その一方で、「病院を無料にします!」という言葉には、「税金がかかり過ぎるからよくない」という冷静な意見も聞こえてきます。

そしていよいよ、投票です。どの候補者からも魅力的で素晴らしい政策の提案があり、誰へ投票するか悩んでいる雰囲気が生徒たちから伝わってきました。自分で考え、自分で選んだ人が決まるという経験は、一票の重さを知ることができるとても大事な経験だったのではないのでしょうか。

日本の若者の投票率は、諸外国に比べてとても低い状況です。この経験がきっかけとなり、彼らが将来投票所へ足を運んでくれるといいですね。



支持したい候補者へ、初めての投票



ドキドキの開票作業

インタビューしました

Q.初めて知ったことはありましたか?

- ・立ち会い人がいて、ずるができないようになっていてびっくりしました。
- ・鉛筆で書くことを知りませんでした。

Q.投票するとき、立候補者の演説でどんなところを参考にしましたか?

- ・本当にそれができるのかどうかを考えました。投票が無駄になってしまうからです。

Q.18歳になったら選挙に行きますか?

- ・行きたいです。若い人が選挙に行かないと、若い人の意見が国の方針に入らないからです。
- ・行かないかもしれません。一票だけ減っても別にいいかと思ってしまいます。

Q.どんな感想ですか?

- ・政治に興味ができました。選ぶのは難しいので最初から決めつけずに、慎重に考えなきゃいけないと思いました。

(担当/伊関、増田)

たいま

夫婦で子育て中

港区では高層マンションが多く30~40歳代の区民が増加し、その結果出生数が増えていると推測されています。

子どもを持つ核家族の状況

港区の6歳児以下の子どもを持つ核家族の割合は、平成22年の国勢調査によると5年前でも全国平均84.0%を上回り96.5%と非常に高い割合になっています。そしてかつてのように、祖父母の助けはほとんど得られません。

相談相手が欲しい

「子育ての悩みを相談できる人が1人もいない」と答えた0歳児の母親は29.7%、2歳児以下の子の母親の平均は27.6%もいるそうです。(ベネッセ教育総合研究所)

父親たちの意識の変化

中央調査社の世論調査では、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」と考える20~50歳代の父親が年々増加し、特に20歳代と30歳代では過半数の人がそう考えているという結果が出ています。

夫婦の共働きは5割を超えた!

平成24年の東京都福祉保健基礎調査では共働きの割合は53.8%となり、その前の平成19年の調査結果に比べて7.7%増加しています。



わたし
歩けるの



ママと一緒にヨガ教室



運動の後はパパとゲーム

<母親の悩み…今と昔>

10~15年前によく聞かれた悩み

- ・子どもの発育状況が正常かどうか知りたい
- ・予防接種や病気について知りたい

今の母親の悩み

- ・赤ちゃんの抱き方・泣いた時のあやし方が分からない
- ・赤ちゃんとの遊び方が分からない
- ・子どもとのコミュニケーションの取り方が分からない

妊婦体験をした父親たちは・・・

「育児は夫婦でというけれど、妊婦の身体を理解しなければいけなかった」「妊婦ジャケットは胎児だけではなく羊水の重さを含めた重さがあり、あまりの重さに驚いた」「赤ちゃんの抱き方、お風呂の入れ方、オムツの替え方など知らないことばかりで、出産前に習い勉強になった」と両親学級に参加した父親が体験を話してくれました。

大活躍!土曜日の育児パパ

朝、保育園に子どもを送り届けるのは父親の仕事と聞いていましたが、土曜日は児童館にバギーに乗せたり、抱っこや手を引いたりして遊びに来る父親が多いそうです。育児を積極的に分担しています。

(担当/土屋、本城)

区からのお知らせ

平成28年度高輪地区防災ボランティア育成事業「防災ボランティア養成講座」受講生募集

地域防災力向上のため、高輪地区在住者及び高輪地区大学の在校生を対象に、災害時ボランティアに必要とされる講座及び訓練を高輪地区内の大学と連携し講義形式で実施します。

- | | | | |
|-------------|---|-------------|---|
| 申込期間 | 平成28年4月1日(金)～4月21日(木) | 開講日 | 平成28年5月14日(土) |
| 申込方法 | 申込用紙に必要事項を記入のうえ各大学窓口または高輪地区総合支所協働推進課へ提出。
※申込用紙は4月1日(金)から高輪地区総合支所協働推進課にて配布。 | 受講期間 | 5月～7月(5日間程度) 9月～11月(3日間程度)
・主に土曜日(日曜日となる場合もあります)
・防災士研修講座は平成29年1～3月の任意の日程で受講(2日間) |
| 申込要件 | 北里大学、東海大学、明治学院大学の学生、または、高輪地区在住で防災や地域活動に意欲のある人。 | 学習内容 | 防災講座・応急救護・地域と交流体験・防災士資格取得 |
| 定員 | 20名程度(選考) | 学習施設 | 各大学・港区施設等 |
| | | 費用 | 無料(全講座の7割以上の出席で防災士研修講座を無料で受講できます。) |

【問合せ】高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 TEL:03-5421-7621 ※詳細は港区ホームページや広報みなどに掲載する予定です(4月予定)

たかなわ地域防災研究事業映像作品『えっ、違うの!』～正しい防災知識と災害時の心構え～

地域防災力の向上と防災協議会の活動支援を目的とした平成27年度高輪地区総合支所地域事業「たかなわ地域防災研究事業」で防災知識普及啓発用DVDが完成しました。

本年度から開始した「たかなわ地域防災研究事業」では、防災知識普及啓発用DVDを作成するにあたり企画段階から高輪地区内の各防災協議会・地区内大学・高輪警察署・高輪消防署にご協力をいただきながらシナリオを作成しました。

情報量よりもわかりやすさに重点を置き、出演者が視聴している方に問いかける視聴者参加型の内容で、全8話のオムニバス形式にまとめられました。

撮影は、実際に区民避難所として指定されている港区立白金の丘学園や旧三光小学校を舞台に行われ、高輪地区内の各防災協議会や地域住民の皆さんの出演により、たいへん身近に感じられる映像に仕上がりました。

この啓発用映像は、港区公式ホームページ上でも視聴が出来ます。また、DVDの貸出もおこなっています。個人での視聴や職場での研修などにご利用ください。

港区ホームページ <http://www.city.minato.tokyo.jp>

※高輪地区総合支所のページをご覧ください



【問合せ】高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 TEL:03-5421-7621

高輪今昔物語

皆さんの昔の大切な写真を募集します!!

この事業では、高輪地区の魅力を発信するために、昔のまち並みや人々の暮らしぶり、まち並みの変化等の様子が分かる写真、歴史を物語る写真の収集・保存・活用に区民と協働で取り組んでいます。



1967(昭和42年)12月9日 品川駅前

募集写真

高輪地区(三田4・5丁目、高輪、白金、白金台)で撮影されたもので、港区ホームページで公開可能な写真。その他、お借りした写真は、当時のお話をお聞きした後、お返しします。

昔の写真お待ちしています!!



高輪地区歴史

【問合せ】高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当 TEL:03-5421-7123

障害者差別解消法が施行されます

本年4月1日から、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行されます。

この法律は、行政機関等や民間事業者に対し、障害を理由とする「不当な差別的取扱いを禁止」するとともに、障害のある人が日常生活や社会生活を送る上での「社会的障壁」を取り除く、「合理的配慮の提供」を求めています。地域全体で障害を理由とする差別をなくし、障害のある人もない人も、お互いの人格と個性を尊重し、支え合いながら、ともに生きる地域社会の実現をめざしましょう。

	法の規定	
	不当な差別的取扱い	合理的配慮の提供
行政機関等	禁止	法的義務
民間事業者	禁止	努力義務

○不当な差別的取扱いの例

・障害があるという理由だけで、サービスの提供や入店を拒否する。

○合理的配慮の提供の例

・段差がある場合に、車椅子利用者にキャスター上げ等の補助をする。
・筆談、読み上げ、手話等の手段を用いて説明等を行う。
・周囲の人の理解を得た上で、申請手続き等の順番を入れ替える。

【問合せ】保健福祉支援部障害者福祉課障害者福祉係
TEL:03-3578-2670 FAX:03-3578-2678

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなとつづき バックナンバー

編集だより

▼記事一つ一つ、編集スタッフが地域への熱い思いで取り組んでいます。この熱い思いを読者の方に少しでも伝えられたらと願っています。(安藤)

▼車の行き交う表通り。そこから少し奥に入るだけで、随所に静かな庭園や緑地があります。これも高輪地区に住む魅力の一つでしょう。(梶)

▼高輪地区のみなさんと過ごした大学生活。忘れられない4年間になりました。ありがとうございました!(増田)

▼穏やかな笑顔を絶やさず楽しそうに仕事の話をする古川さん、仕事に懸ける熱い思いが伝わってきました。(吉田)

▼高輪地区には、有名な建築家の設計によって作られ、周囲に溶け込んだ美しい建造物が多くあり、とても嬉しく思います。(明石)

▼御田小で模擬投票に参加し、一生懸命な児童達に接し、この子達が成長する頃、日本はどんな時代になっているだろうか。(伊関)

▼表紙に素晴らしい作品を提供していただきました。穏やかな雰囲気の中で桜の間から望める不二(富士)が何かを語りかけています。(太田)

▼高輪地区には、多くの魅力的な庭園、緑地があります。取材を通して、都心とは思えない様な体験ができたことに感謝しています。(川上)

▼都心とは思えないほどの自然環境の中にある東禅寺、年一回の「緑のコンサート」が楽しみです。(滝川)

▼子育ての事情、高輪地区での取り組みが時代の変化につれ大きく変わっている様子が取材を通じよく分かってきました。(土屋)

▼子を思う親の愛は昔も今も変わらない。しかし時代の変化で家族を取巻く環境が変わる。それに対応し夫婦で子育てに取組む姿に感動。(本城)

▼同じ地域に40年以上住んでいても、知らない建物や公園が沢山あって、その謂れや歴史を聞くともっともっと知りたくなります。(松島)

▼街並みに彩を添える建物。昭和に入ってから建物も、後世まで長く愛される存在であり続けて欲しいと思います。(森)

区民編集メンバー

- | | | |
|---------------|--------|--------|
| 安藤 洋一(チーフ) | 伊関 則子 | 土屋 和夫 |
| 梶 昌夫(サブチーフ) | 太田 則義 | 本城 光子 |
| 増田 祐輝(サブチーフ) | 川上 智子 | 松島 佐紀子 |
| 吉田 由紀子(サブチーフ) | 滝川 まりえ | 森田 知幸 |
| 明石 美穂子 | 田口 理恵 | 森 裕子 |

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085